恵那市教育研究所
http://www.ena-gif.ed.jp/
恵那市長島町正家一丁目1番地1 恵那市役所西庁舎4階
TEL(0573)26-2111 FAX(0573)26-2155
令和3年 No.264 8/6

恵那市教育研究所だより

えな

やぶいた かたち から うまれたよ「みんなであそぼう」
東野小学校　1年　西尾　いちと

一人一人の子供を主語にする

東濃教育事務所長　長谷川　広和

「令和の日本型学校教育」令和３年１月、中央教育審議会は、子供たちの知・徳・体を一体で育むこれまでの「日本型学校教育」のよさを受け継ぎながら、急激に変化し、予測困難な時代に、様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようICT活用を柱に「全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学び」の実現を目指すと答申しました。その答申の「はじめに」に、この「一人一人の子供を主語にする」という言葉が記されています。

昨年度、県内半数近くの小・中学校で実施した全国学力・学習状況調査質問紙調査において、「算数（数学）の授業の内容はよく分かる」の質問に「当てはまる」と回答した児童49.0%、生徒39.4%、「算数（数学）の勉強は好きだ」では、「当てはまる」と回答した児童36.5%、生徒32.4%。「よく分かる」より「好きだ」と答える子供の割合が低く、「分かるけど好きでない」という実態が明らかになりました。同様の傾向は、国語においてもみられます。果たして、子供は、学ぶことが好きではないのでしょうか。

先日、学校訪問の際に、ビーカーに入るメダカの雌雄の違いを、タブレットで共有しているメスの特徴（画像）と比較しながら、メダカと向き合いグループの仲間と追究する子供たちに出会いました。そこでの子供の目の輝きは、子供は本来、知的好奇心や活動意欲にあふれ、「知りたい」「やりたい」「学びたい」と思う存在であることを表していました。そんな姿を目の当たりにし、私たち教師は、子供の思いや願いに十分応えられているのだろうかと考えさせられました。

私たちは、「学力向上」というと、ついつい教えることを強く意識してしまいがちです。授業は教材、子供、教師の三者で成立します。教師が教材をどう捉えるかという教材観、教材を通して子供をみたときにどんな特徴やつまずきがあるのかという子供観。そして、その教材を子供の実態を踏まえて、どう学ばせるかという指導観を、指導案には書き切るよう、指導されてきました。

「この教材の魅力は何か。」「教材に惚れ込んでいるか。」「子供は何と言っている。」「子供のつまずきをどうやって乗り超えさせるんだ。」「子供にとって、この授業の値打ちは何だ。」

教師の教えたいことと、子供の学びたいことを重ね、子供自身が自分のよさや考えを生かして、自らの力でつまずきや課題を解決するように授業を構成する。これは、「一人一人の子供を主語にする」営みであり、子供たちをその気にさせ、新たな世界に誘う、プロ教師としての心構えであると思います。時代が令和になっても、変わるものではありません。

教材を深く理解し、教材が問いかける声を子供がどう受け止めるかを楽しめる教師、教材に潜む課題を追究するわくわく感や解き明かした時の感動を子供とともに味わえる教師、つまずきを乗り越えた子供の努力を一緒に喜び合える教師が、自分に自信をもち、自分のよさや可能性を発揮できる子供、「学ぶことが楽しい。好きだ。」と言える子供を育むと思います。

子供が思わず動きだす。昔、参観させていただいた中学校理科「光の屈折」の授業で、教室全体を暗幕で覆ってピンホールカメラにして、小さな穴から光が通り、映し出された反転した外の景色に、生徒たちから歓声があがり、繰り返しそのしくみを確かめる光景が今も思い出されます。

R80
古紙配合率80%以上再生紙を使用しています

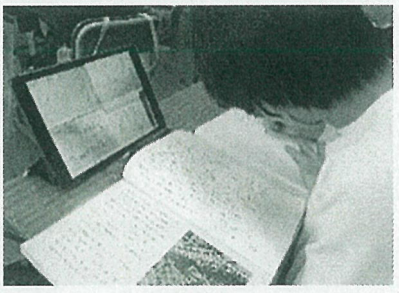
特集 ICT教育の推進

学びを支えるICTの活用

山岡小学校

学習に向かう基礎を作りながら、仲間と学び合うためのiPadの活用の仕方を考え、研修を進めています。

【意見の可視化→学びの本質に迫る】



教師がロイロノートの比較機能を用いて数人の意見を比較して提示しています。6年生の国語では、これをもとに、相違点を探しながら自身の学びを深めています。1年生の算数では、赤と青のおはじきを無作為にとって５を作る活動の際に、どれも５だけど赤と青の組み合わせが違うことから５はいくつといくつでできているか確かめる活動をしています。

【交流の質を高める】

児童がロイロノートを使って、自分の考えが書かれたノートを撮影し、それをもとに交流をしたり発表したりしています。書いたノートを指さすだけでなく、ポインターを使ったり、ペン機能を使って書き加えたりして説明しています。自分の考えが伝わりやすくなり、新しく分かったことなどを積極的にノートに書けるようになってきています。

【算数：実態・学習状況・定着状況の見届け】

ロイロノート、キュビナを用いて実態の見届け、学習状況の見届け、定着の見届けに取り組んでいます。教師が導入時にフラッシュカードや前時の復習の問題を配付し、前時までの実態の見届けをします。また子どもたちが考えたことをロイロノートの提出機能を用いて、提出状況や考えを一覧で把握することで学習状況を見届けています。終末は評価問題の出来を見届けています。それぞれの見届けについて、全学年で少しずつ取り組んでいます。

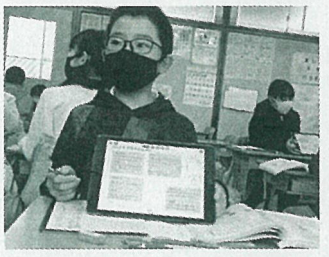
学習量を確保するICTの活用

武並小学校

１人１台のタブレット端末が導入され、ICTの活用について教師と児童がともに学びながら活動を行ってきています。

【国語：高学年 話すこと・聞くこと】意見の可視化

ロイロノートで自分の意見を分かりやすく伝えるためにプレゼン資料を作成しました。資料を手掛かりにすることで、話すことが苦手な児童でも考えを発表することができました。聞き手は資料と合わせて仲間の考えを聞くことで、主張の要点を落とさず聞くことができ、質問や感想でも積極的に話す姿がありました。また、ICTを活用することで短い時間でも分かりやすい資料が作成できました。文字の色や大きさなどを容易に変更することができ、分かりやすく伝え、聞き手が納得できる発表への意識を高めることができました。



【算数：全学年 ペア交流】考えを発表する時間の確保

ロイロノートで考えをまとめる個人追究の後、ペア交流の時間を設定し、矢印やメモを書きこみながら説明し合います。ペアで交流したことをもとに自分の考えの修正や補足を行い、理解を深めています。全体交流では順序立てて分かりやすく説明できる児童が増えています。児童の画面を大型モニターに投影することで、改めて黒板やボードに書き直す時間を削減し、交流時間を確保しています。

【算数：全学年 習熟の時間】定着状況の見届け

習熟の時間にロイロノート・キュビナを活用することで、一人一人の定着状況の見届けを行っています。①児童は教師が用意した確認問題を解き、ロイロノートで提出。②教師は提出箱の確認、支援の必要な児童への個別指導。③提出した児童はキュビナのワークブックに取り組む。④ワークブックを終えた児童は発展問題に取り組む。

このように見届けと必要な個別の支援、習熟の時間を確保しています。

特集 ICT教育の推進

自校のICT教育の実践

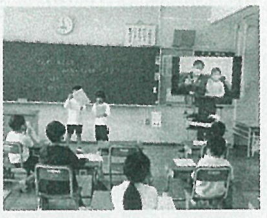
東野小学校

昨年度より「１人１台タブレット」が配付されました。新学年が始まり、日々様々な授業や行事等において、活用方法を模索している所です。

【新１年生　タブレットとの出会い】

今年度入学した1年生16名も、最初こそ恐る恐るタブレットを眺めていましたが、直ぐにカメラ機能やロイロノートの使い方を覚えました。

生活科の学習では、全校を回って「先生インタビュー」を行い、インカメラで先生とツーショットを撮ってロイロノートに送るという課題を見事にこなす様子がありました。自分と先生の立ち位置に四苦八苦しつつも、一生懸命写真を撮りました。撮った写真はテレビ画面で共有し、先生達の名前とインタビューしてきた内容を発表しました。



完成した「先生紹介シート」は、元気な1年生と先生達のツーショットが目を引く、素敵な物になりました。シートは児童玄関に掲示され、1年生の頑張りを見てもらう事ができました。

【児童会活動での活用】

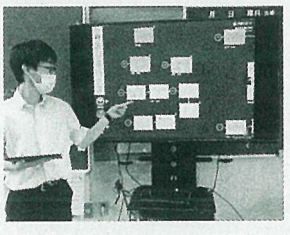
昨年度より、学級活動や委員会において、iPad活用を行ってきました。コロナ禍で全校集まって１年生を迎えることができなかったため、iPadに１年生インタビューを録画し、モニターで見ました。全校の委員会活動の報告や各学年の取り組み発表である「なかよし集会」(月１回)でも、iPadを使ったプレゼンテーションを取り入れています。

「どうしたら、全ての学年に分かりやすいか。」「長くなりすぎず、でも言いたいことが伝わるまとめ方は…」と意見を言い合いながら、ロイロノートで資料作りに励む児童は、発表を聞く側の視点に立ち、資料を客観的に見る力がつき始めています。

5月の6年生発表では、スクリーンに映った資料を背に、堂々と学級目標や年間の活動について語る、最高学年の姿がありました。耳からは6年生の声が、目からは視覚的な情報があり、どの学年にも分かりやすい発表になりました。今後も高学年に限らず、児童主体で相手を意識した発表を目指します。

【授業研究会での活用】

東野小学校では、「特別の教科道徳」も公開授業と授業研究を行っています。今年度は、コロナ禍で密を避けた研究会の場をつくるため、iPadの活用を取り入れました。意見交流のさらなる活発化・効率化を重視し、ロイロノートを活用し、視点ごとに色分けされたテキストに成果・課題・提案を書き込み、検討する中で意見をまとめ、グループ交流に生かしています。



教員のICT活用能力向上の良い機会となるだけでなく、ペーパーレス及び時間の短縮にも繋がります。

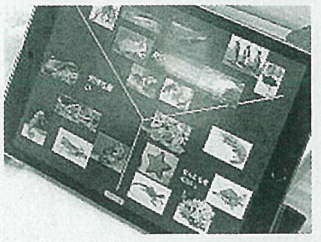
今後も、より良い活用方法を模索し続けていきます。

恵那北中学校のICT教育の実践

恵那北中学校

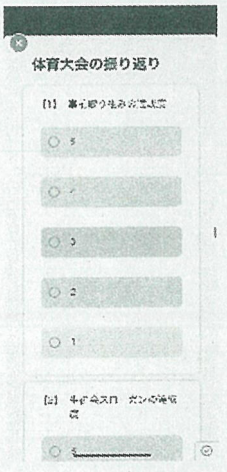
恵那北中学校では、生徒が主体的に取り組めるよう前年度より導入されたiPadを授業や学校行事で活用しています。

【授業】



主体的に学びに取り組むためのツールとして、主にロイロノートを活用し、各教科での授業を行っています。シンキングツールを使い、自分の意見をまとめたり、仲間の意見と比べたりすることで意見を可視化し、学びを深めていく姿が見られました。また、相手意識をもって、順序立てて説明できるように、自分のまとめたものを大型モニターに投影し、レーザーポインターで示しながら発言することにも各教科で取り組んでいます。授業の終末に、評価問題やまとめを提出することで、学習の定着を把握し、より確かな見届けを行うためにICTを活用しています。実践を重ねる中で、ICTの活用のタイミングの重要性を感じています。「ただ何にでも使えばいい。」では授業の定着が図ることができません。より効率的に効果的に使う方法を吟味して実践を行っていきます。

【行事】



先日行われた体育大会では、コロナ禍でできる競技を3年生を中心に話し合いを行いました。学級会では、種目を調べるだけでなく、意見をまとめ画面共有を行い、提案しました。仲間との交流の中で、修正や補足を行い、限られた時間の中で話し合いをすることができました。また、応援の演技図をロイロノート内で作成し、体育館のスクリーンに投影することで、効率的に振り付けを覚えました。応援の様子を撮影したものをリアルタイムで団全員で確認をすることで、客観的な目をもって練習に取り組めました。

生徒会では、全校に向けて体育大会の振り返りのアンケートを実施しました。今までは用紙の作成や、集計作業に多くの時間を要しましたが、アンケート機能を使うことで、集計の必要がなくなりました。満足度などの数値化もその場で行うことができるため、その分の時間を掲示物作成や今後の話し合いの時間にすることができました。

生徒は私たち教員よりも柔軟に考え、ICTを活用しています。恵那北中学校では、教師、生徒共に考え、今後もICT教育を進めていきます。

コミュニティ・スクール活動

中野方小学校

地域とともにある学校

本校では、長年にわたって多くの地域の方々や諸団体が、熱心に学校教育に携わってくださっています。その団体（組織）数は20を超えます。また、総合的な学習の時間や生活科、社会科を中心として、学年ごとに学習内容とリンクさせながら、年間を通じた系統的、横断的な学習のカリキュラムも作成しています。そのため、本校におけるコミュニティ・スクールは、現在、地域の皆さんが関わってくださって体験的に学んでいること、一緒に活動していることについて、ねらいや内容等を整理し、今までの連携をさらに深めていくことを大切にしています。

令和２年度は、コロナ禍での安全な学校生活について相談・報告をしながら、資源の回収ステーション設置や地域学校協働活動について、実際に令和３年度から始動できるよう、方向を定めてきました。

１　学び支援

バイオリン演奏、大豆（味噌・豆腐）づくり、野菜づくり、読み聞かせ、歯と口からの健康教育、福祉体験、企業訪問を主な内容としています。

中野方町には国産バイオリンを全工程通して生産する、国内唯一の工場があります。その工場に見学に行ったり、実際に演奏の仕方を習ったりします。５・６年生が合計で12回、外部講師をお招きし、地域ボランティアの皆さんの支援もいただいて練習します。そして、学校の秋祭りで地域の方にお披露目します。

福祉体験を行う４年生は、学びのゴールとして、認知症サポーター講座を受講したり授業参観日に保護者に習ったことを伝えながらナビゲーターを務めたりします。

２　ふるさと体験支援

ふるさと巡り（笠置山方面・坂折棚田方面・中野方ダム方面）、坂折棚田での米作り、水源の森探索、森林学習、杵振り踊りを主な内容としています。

４月に行うふるさと巡りでは、地域講師の皆さんがコースのポイントに立ち、『中野方かるた』を活かしながら昔の様子を話してくださいます。

また、5年生は、森の健康診断で実際に間伐を行い、『木の駅』への間伐材の搬出を体験します。

３　安全・環境支援

登下校時の見守り、花植え、環境整備を主な内容としています。

１年間お世話になった地域講師の皆様には、６年生が作った寄せ植えを届け、感謝の気持ちを伝えます。

地域、家庭と学校が同じ思いで子ども達を慈しみ育んでいけるよう、更に連携を深めていきます。そして、子ども達からも発信していきたいです。

コミュニティ・スクール活動

山岡中学校

『自分と人、地域を大切にする山岡の子』を育てる学校運営協議会

遠山村と鶴岡村が合併し、昭和33年旧山岡町立山岡東中学校と同山岡西中学校が新しく統合して、現在の山岡中学校は発足しました。平成７年度には現在の校舎に引っ越し、平成16年には恵那市立になるなど、これまで変化はあったものの、山岡中学校は開校以来62年間、歴史と伝統のある地域と共に歩んできた学校です。

恵那市の学校教育の指導の方針である「地域に根ざし、地域を生かす、特色ある学校」のもと、「地域とともにある学校」を目指し、学校運営協議会を設置して４年目を迎え、本年度より小中合同で「山岡学校運営協議会」として新たにスタートを切りました。

【運営協議会の様子】

協議会委員の皆様は山岡の子どもたちに、

- 地域に貢献できる山岡っ子
- 素直で自分に合った目標をもった山岡っ子
- 大きな声で挨拶ができる山岡っ子
- 笑顔で元気な山岡っ子
- 色んなことに興味をもって学んでいく山岡っ子
- 他人を思いやることのできる山岡っ子

になって欲しいとの願いをもってみえます。

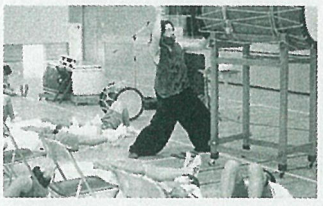
山岡学校運営協議会の基本理念は「できる人が、できるときに、できることを、できる範囲で」を設置以来貫いており、「つながる、強める、広める」をキーワードとして運営しています。

この願いは、地域の方々を講師として招き、地域の文化に親しみ継承していこうという気持ちを育む「地域総合」や、自身の生き方を見つめ、未来に向けて大志を描く「志講演会」、そして様々な地域活動へのボ

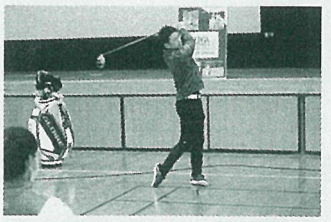
ランティア参加（昨年度は感染症対策でほぼ無しでしたが）など、一歩前へ踏み出すことができる生徒を目指す「志」教育によって山岡中学校に脈々と引き継がれています。

昨年度の「志講演会」は地域の方を講師にお招きして、３回行うことができました。

第１回は花白温泉料理長、高橋浩一朗様による講演。夢を追い求めるきっかけやその努力を熱く語っていただきました。



第２回は和太鼓演奏者である加藤拓三様に、演奏者としての厳しさと喜びについて、第３回はプロキャディー田渕豊様に夢を持つこととそれに向かって努力することの大切さをそれぞれ語っていただきました。



また、「地域総合」では、地域の方を講師として招き、今年度は「竜王太鼓・茶道・弓道・書道・歌舞伎・絵手紙・陶芸」の７コースを開設しました。地域の文化を受け継いでいこうとする心や地元をあらためて見直す機会となることを願い進めていきます。

委員の方々皆さんが地域と学校とを大切にしていきたいという共通の願いをもっており、学校からのお願い事も快く引き受けてくださっています。今後も協力を頂きながら、山岡っ子の育成に取り組んでいきたいと思います。

友だちと生き抜く力『心と体』を育む

～地域の自然を生かした豊かな体験を通して～

こども園紹介　　山岡こども園

山岡こども園は山々に囲まれた田園地帯の高台にあり、静かで豊かな自然の中にあります。天気のよい日は、遊具やドッジボールをして元気に遊ぶ子ども達の姿で園庭がいっぱいになります。しかし、よく見るといつも一人でいたり、体幹が弱いのか、姿勢が保てず崩れてしまったりする子どもの姿も見られました。こうした子ども達の実態を踏まえ、今年度の園のテーマを冒頭のようにしました。大きな目標ですが、発達段階から考えると、まず人と関わることの楽しさ、体を動かすことの楽しさがわかることが大切です。そのために、山岡こども園がもつ強みである、豊かな自然や温かい地域の方々の力を生かしたいと考えました。その実践のいくつかを紹介します。

１．自然と地域の中で

天気のよい日は散歩に出かけます。子ども達が地域を知ると共に、出会った方たちに挨拶を積極的にしてコミュニケーションをとるようにしました。また、散歩で収穫した季節の物を給食先生に調理してもらい旬の味も楽しみました。

さらに、コロナ禍ではありますが、感染対策をしながら、「食のリーダー」の方から大豆の植え方を教わったり、秋には地域の畑でさつま芋ほりも経験させてもらったりしています。

こうした活動を通して挨拶ができる子、自然の中で動植物に興味を持つ子が増えてきました。

さらに自分たちの住んでいる山岡町や人々を好きになり、愛着を持ってくれることを願っています。

↑地域の方と芋ほり
※昨年の様子

異年齢でお散歩→

２．異年齢との関わり～運動あそびを通して～

近年、子ども達の体力の低下が指摘されており、本園でも同様の傾向が見られました。子ども達の遊びの環境は変わってきていますが、今も昔も子ども達は体を元気に動かすことが大好きです。

そこで、園では遊びの工夫をしながら、異年齢で仲良しグループを作り様々な活動を行ってきました。一緒に散歩に出かけたり、リズム遊びやお手伝い、集団遊びをしたりしていると自然に優しい気持ちやいたわりの気持ちが育ってきました。例えば活動の中で、小さい子の支度が遅くなってもせかすことなく、やさしい言葉をかけながら見守ったり手を貸したりする姿が見られるようになりました。

←集団あそび
じごくごくらく

運動あそび
の様子↓

みんなで
↓水あそび

相手を思いやる心と身体を動かす楽しさを　育てていくことが、園のテーマでもある「友だちと生き抜く力『心と体』を育む」につながり生きる力になっていってくれるものと願っています。

←異年齢でお散歩

温故知新★ ONKOCHISHIN

心に残る遊び・授業・先輩・職員

挑戦体験がくれたもの

三郷小学校　校長　　小木曽　靖濃

50代半ばの同窓会で数名が「K先生に会いに行こう。」と言い出し、小学校４年生の時担任だったK先生のお宅に伺いました。当時K先生は大学出たてで、子どもと一緒に夢中になって遊んでくれる明るく元気な先生でした。「たしか君はまだ、平泳ぎのテストに合格していなかったなあ。」…K先生は真っ白になった頭を掻きながら、私にそう言われました。思い起こしてみれば、色々な方法で教えてもらったけれど、カエルのようにきれいな足の動きはついにできませんでした。型の習得から逃げるように、私は長距離に挑戦する検定ばかり受けていました。200mを超えると、私の犬かきフォームは今にも溺れそうな姿に見えたそうです。周りの先生にストップをかけた方がいいのではと幾度か助言されたそうですが、いつでも差し出せるように竹竿を準備して付き添い、私が自分からギブアップするまで泳がせてくれたのでした。陸の上で竹竿を持った先生たちが何人も構えているとは知らず、私は400m泳いで検定を終了しました。運動にコンプレックスを抱いていた私の唯一の体育の記録です。泳法テストには目をつむり、やろうとしたことをとことんやらせてくれたK先生との出会いが、「教師って素敵な仕事だな。」と思った第一歩目でした。

子どもは無限の可能性を持っています。そして、未完成ながらもその時々に100％精一杯です。時に、少し無謀なことに挑戦してみたり、失敗したりもします。大人はというと、経験から限界を知り、危険を予知し、先回りして子どもの行動にストップをかけてしまいがちです。また今後は、ICTの発展が、実体験をせずとも手軽に知識を得たり、疑似体験したりできる世界を広げていくことでしょう。しかし、子どもが気付かぬところで危険防止のネットを張りつつ、子どもの挑戦意欲や失敗経験は大切にしてあげたいと思います。私たちもそうやって大人になってきたのですから…。

ALT

イアン先生、2年間ありがとうございました。

Ian Ferguson　　Life in Ena

Coming to Ena at first, I had never heard of the city. After living one year in Aichi, I had traveled around Gifu but never went to Ena.

After two years of living and working here, I grew to love Ena City. There are many fun activities to do and many beautiful places to visit. Also, the people of Ena are so friendly. People always went out of their way to say hi or talk. Finally, the schools I worked at Ena Nishi Chu, Yamaoka elementary, and Osashima elementary were fantastic. The memories I made with the students and teachers are memories I will never forget. Thank you Ena!

2学期から恵那市の小中学校の外国語（活動）でお世話になります。

ジミー・ヘルナンデス先生、よろしくお願いします。

Hello, I am so glad to meet you.　　My name is Jimmy Hernandez … です。

I was born and raised in California Los Angeles.

Los Angeles is a wonderful city filled with people from all over the world.

It has mountains, forests, lakes, beaches, rivers, and many smaller cities.

My hobbies include exercising, walking, and videography.

Ena city is a wonderful place and I hope to explore it all in my space time.

I enjoy nature and the peaceful environment in Ena.

When I was younger, I was very shy and did not have many friends. In order to make many friends, I decided to begin learning many languages and linguistics at my university. Currently I can speak English, Spanish, French, and some Japanese.

Nowadays there are many language translation machines, apps, and AI products in the market. Although some people believe learning another language is no longer necessary because of these machines, a machine will never be able to convey feeling / emotions. There is a saying, “If you speak to someone in their language, you are speaking to their heart.” By learning a language, you are also learning their culture, history, emotions, etc. This is something a machine can never do.

I came to Japan to experience life in a different country and to make many Japanese friends. Since I can speak Japanese, I have been able to make many friends in Japan. The results of my language studies are finally paying off.

In the future, I hope I can work for a Japanese tourism company, giving tours in and out of Japan.I look forward to meeting many people and to make many memories in Ena.

よろしくお願いします。